

令和5年感染症発生動向調査概要

1 定点把握対象疾患

(1)小児科・インフルエンザ・眼科・基幹定点報告疾病

令和5年の患者報告数は32,862件であった。報告が多かったものはインフルエンザ11,233件、新型コロナウイルス感染症8,749件、感染性胃腸炎5,652件であった。

1 定点当たりの患者報告数で全国平均と比較して高いものは、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎2.27倍、無菌性髄膜炎1.67倍、新型コロナウイルス感染症1.08倍等であった。一方、インフルエンザは0.83倍であった。

平成30年から令和4年の5年平均と比較して、ヘルパンギーナ、インフルエンザが増加した一方、伝染性紅斑、感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）は減少した。

なお、新型コロナウイルス感染症は令和5年5月8日から感染症法上の5類に分類され、全数把握疾患から定点把握疾患に変更された。

(2)性感染症(STD)定点報告疾病

性感染症(STD)定点報告対象の4疾病(性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症)の患者報告数は503件と昨年より3件増加した。いずれも男性の割合が高く、地域別では西部地区での割合が高かった。

年齢別では、性器クラミジア感染症は15歳から40歳代に多く、特に20歳代が最も多かった。性器ヘルペスウイルス感染症は20歳から64歳、尖圭コンジローマは20歳から40歳代、淋菌感染症は20歳から50歳代と幅広い年齢で多くみられた。

(3)基幹定点報告疾病

基幹定点報告対象の3疾病(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症)の患者報告数は119件と昨年より7件増加した。

2 全数把握対象疾患

(1)1類感染症

鳥取県、全国とも発生はなかった。

(2)2類感染症

鳥取県では、結核41件の報告があった。

(3)3類感染症

鳥取県では、腸管出血性大腸菌感染症19件の報告があり、その他の感染症では発生はなかった。

(4)4類感染症

鳥取県では、レジオネラ症11件、日本紅斑熱3件、重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFVウイルスであるものに限る。)2件、E型肝炎1件、つつが虫病1件、デング熱1件の報告があった。

(5)5類感染症

鳥取県では、梅毒29件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症8件、侵襲性肺炎球菌感染症8件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症6件、急性脳炎(ウエストナイル脳炎

等を除く。) 4 件、アメーバ赤痢 3 件、後天性免疫不全症候群 3 件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 3 件、百日咳 3 件、播種性クリプトコックス症 2 件、ウイルス性肝炎 (E 型肝炎及び A 型肝炎を除く) 1 件、急性弛緩性麻痺 (急性灰白髄炎を除く。) 1 件、クリプトスポリジウム症 1 件、水痘 (入院例に限る。) 1 件、麻しん 1 件の報告があった。

(6) 新型インフルエンザ等感染症

鳥取県では、新型コロナウイルス感染症 31,877 件の報告があった (令和 5 年 5 月 7 日報告分まで)。

3 新型コロナウイルス感染症の発生状況及びゲノム解析

新型コロナウイルス感染症は、月別では夏期及び冬期に患者報告数が増加する傾向にあった。ゲノム解析の結果では、年間を通じてオミクロン系統の株の流行が続いたが、BA.5 系統、BN.1 系統、BF.7 系統、XBB 組換体、EG.5 系統と主系統が移り変わった。

4 鳥取県内における感染症集団発生件数

令和 5 年の鳥取県での感染症集団発生は、感染性胃腸炎 49 件 (前年 22 件)、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 1 件 (同 5 件)、RS ウイルス感染症 11 件 (同 22 件)、咽頭結膜熱 2 件 (同 1 件)、手足口病 4 件 (同 5 件)、ヘルパンギーナ 3 件 (同 0 件) の報告であった。インフルエンザによる臨時休業は 425 件、集団発生は 155 件 (共に同 0 件) であった。新型コロナウイルス感染症は、5 月の 5 類移行後 229 件報告されインフルエンザに次ぐ件数となった。

5 病原体検査状況

検体受入件数は 7,594 件で、多い順に新型コロナウイルス感染症 4,476 件、腸管出血性大腸菌感染症 85 件、麻しん 69 件、風しん 69 件、日本紅斑熱 21 件、重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) 14 件等であった。

腸管出血性大腸菌感染症、日本紅斑熱等の 16 疾病の 16 種類 33 型 (血清型、遺伝子型、遺伝子型および遺伝子群を含む) のウイルス、リケッチア及び細菌が検出された。主なものは以下のとおり。

(1) 腸管出血性大腸菌感染症

O157 が 3 件検出された。

(2) 日本紅斑熱

日本紅斑熱リケッチアが 3 件検出された。

(3) つつが虫病

つつが虫病リケッチアが 2 件検出された。

(4) 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)

SFTS ウイルスが 2 件検出された。

(5) デング熱

デングウイルスが 1 件検出された。

(6) 麻しん

麻しんウイルスが 1 件検出された。

(7) 感染性胃腸炎

エンテロウイルスが 12 件、アデノウイルス 9 件、サポウイルス 7 件等検出された。